



# 秋田県立 比内支援学校 教育プラン

## I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

### 【学校の現状】

- 在籍数は、小学部、中学部ともに20名程度、高等部が60名程度で、総計約100名と増加傾向にある。寄宿舎生も30数名と増加した。児童生徒は重複・多様化の傾向にある。特に、児童生徒の約10%が肢体不自由を併せ有している。
- 「街は大きな教室だ」のスローガンの下、地域行事に積極的に参加・参画し、本物の力を付けてきた。本スローガンは教育課程の主軸として継続していきたい。併せて、文部科学省からの委託を受け、授業の質の向上を目指して実践研究充実事業に取り組んでいる。
- 地域の学校との交流及び共同学習、高校支援隊の各種支援、センター的機能の充実により、本校の理解推進が大きく広がってきている。平成28年度に改称した学校後援会は、様々な活動で教育振興と充実を図っている。
- 校舎の老朽化により改築事業に取り組んできている。本年度から新校舎建設工事に着手する予定である。

### 【課題】

- 児童生徒の自立と社会参加を目指し、障がい特性に配慮しながら授業の質を高め、本物の力を積み重ねていく必要がある。
- 農園を含め本校の特色を生かした作業学習等を展開し、6次産業化に向けた製品開発を展開したい。
- 就職率60%、就職希望者100%の達成に向けた進路学習・実習・就労先拡大を関係機関と連携し、これまで以上に充実することが求められている。
- 校舎改築を踏まえ、交流及びセンター的機能の推進に因る児童生徒・寄宿舎生増を継続的に推進する。

### 【学校を取り巻く将来の状況の予測】

- 児童生徒数は今年度をピークに微減していくと予想する。ただ、寄宿舎生は関係者への理解推進を図ることで増員が期待できる。障がいの重複・多様化と高等部生の占める割合は変わらないが、問題行動が顕著な発達障がい系の児童生徒が増加すると思われる。
- 地域（大館市）の本校に対する理解は進んでいる。教育委員会を始めとした各関係機関、小中高校・大学との関係も良好であるが、地域の特別支援学級等の人材育成及び各校校内委員会機能の温度差が課題である。
- 校舎改築を機に児童生徒数や寄宿舎生数増が期待できる。また、新たに整備される実習棟活用による農作物等の6次産業化、外部講師や交流を活用した学校特産品の開発、製作、販売など、次の50年を見据えた新たな教育課程の編成が求められている。
- 新校舎は障がいの有無に関わらずユニバーサルデザイン設計で地域交流室や寄宿舎の自立支援訓練ルームも完備されており、地域コミュニティーや生活自立に向けた機能の充実が図られ、内外の期待が大きい。

## II 目指す方向性・学校像や幼児児童生徒の姿

### 【目指す方向性・学校像】

- 「地域と共に育ち、地域に感謝される学校づくり」を推進し、障がいのある児童生徒が価値ある存在であることを、地域と共に具現化していく。
- 「子どもの思いや願いに応える」をキーワードとし、社会に参加する力を育む教育活動や実践研究充実事業を展開していく。

### 【目指す児童生徒の姿】

- 健康・・・心身ともに健康になろうと努力する子ども
- 誠実・・・喜びをもって精一杯努力する子ども
- 自立・・・自分のことは自分の力で成し遂げようと努力する子ども

## Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

具体的な目標・取組	推進指標
<p>「地域を支え、地域に感謝される」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域との共催行事、地域行事への参画</li> <li>○ボランティア活動（除雪、清掃、防災、施設訪問等）の継続</li> <li>○学校後援会、PTAとの連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事（4行事）への参加と地域共催行事（800人以上参加）、防災訓練、清掃活動の実施、夜回り隊・ボランティア活動の継続</li> <li>・地域交流室活用計画立案と地域への周知</li> <li>・地域理解推進に係る学校後援会、PTAとの連携</li> </ul>
<p>「社会参加につながる特色ある教育課程」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本物の力・生きる力につながる学び</li> <li>○学校特産品の開発、製作、販売（6次産業化と外部講師、高校との連携）</li> <li>○交流及び共同学習の質・量の向上</li> <li>○希望する全児童生徒の居住地校交流実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文科省委託研究の推進（公開研究会開催、教育課程・授業・生活指導の質の改善）</li> <li>・学校特産品の開発（各作業班1つ以上）、製作、販売</li> <li>・小中高大学との交流及び共同学習</li> <li>・小・中の全児童生徒における居住地校交流実施率 小：50% 中：40%</li> </ul>
<p>「児童生徒が社会に参加する」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○就労率100%（一般就労）</li> <li>○希望するサービス利用の実現（福祉就労）</li> <li>○自分のよさを生かし、社会に貢献する</li> <li>○長所が生きる事業所を開拓する</li> <li>○自分から行動し、周りの人と一緒に楽しんで活動する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望する生徒の就職決定（100%）</li> <li>・前年度卒業生90%の職場定着</li> <li>・希望する全員の福祉施設やサービスの利用</li> <li>・市の第3次障害者計画にかかる余暇施設（サロン）設置への協力</li> </ul>
<p>「就学、地域の学校を支える」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大館市内全幼保・小・中との連携（日常的な職員派遣による支援と教育相談、研修会の実施）</li> <li>○高等学校特別支援隊の充実（県北地区高校への派遣継続、支援機関と連携した就労支援、研修会の実施）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の関係支援施設との連携強化と計画的、継続的な支援</li> <li>・教育専門監、センター的機能による全幼保・小中高への支援・人材育成</li> <li>・市全小中特別支援学級との交流の場の提供</li> <li>・高校支援充実のためのシステム整備</li> </ul>
<p>「専門性を高める」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大学・医療・福祉・行政機関との連携</li> <li>○地域人材の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開研究会開催</li> <li>・小中（市教委）、高と合同で研修会実施</li> </ul>
<p>「校舎改築事業」 「その他」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎改築工事着手</li> <li>・寄宿舎生増プロジェクト</li> </ul>